

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年3月14日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671400143
法人名	社会福祉法人 長和会
事業所名	恵光園グループホームさくらの里
所在地	鹿児島県垂水市本城217 (電話) 0994-32-1881
自己評価作成日	平成25年12月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年1月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本城川の清らかな水の流れと共に四季の移り変わりの景観も良く、周囲の桜並木は花見の名所として、市民・利用者、職員の憩いの場となっている。垂水市グループホーム連絡協議会の設立にも大きく貢献する等、地域や行政・同業者との連携にも協力し、積極的に取り組んでいる。母体法人の特別養護老人ホームと同敷地内にあり、毎月の誕生会をはじめ、新年会、節分、夏祭り、運動会、敬老会、クリスマス等年間を通して、色々な行事に合同で参加できて、他の利用者や職員との交流も盛んである。又、家族や地域の方々にGHでの生活や認知症に対する理解を深めて頂く為に、年に4回「さくらの里たより」を発行し、ご家族はじめ、法人の役員、行政・地域代表等へも配布を行っている。今年は「協調」を目標にたて、横の連携の充実を図りながら個々の質の向上も目指し、資格取得へむけての勉強会の実施、又、職員が委員会に属し、利用者様へのサービスの質の向上に取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは近隣には田園が広がる河川沿いに位置し、多くの桜の木がある広い敷地には母体施設の特別養護老人ホームがあり、各種の行事や避難訓練・緊急時の対応など、相互に連携・協力できる体制が整い、利用者や家族の安心につながっている。

○地域との交流は非常に活発であり、地域の運動会や文化祭・福祉大会などをはじめ、保育園や小学校との交流とともに、ホームの夏祭りや敬老会・運動会などに地域の方々に参加して頂くことやボランティア・職場体験学習の受け入れなどの機会も多く利用者の楽しみにつながっている。

○管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員の意見や提案などを業務改善やサービスの質向上に結び付けるために、職員とともに常に利用者個々に合ったより良い支援を実現することに視点を当てた取り組みを展開し、利用者や家族に安心を提供できるように努めている。

○管理者や職員は、利用者の食事への楽しみの充実にも大きな関心を払っている。関連施設の栄養士の協力も得ながら、職員全員が利用者の好みの把握に十分注意し、季節の食材を利用しながら好みに応じた献立や調理方法にも対応し、時には庭でのお茶や食事会も楽しんで頂いている。季節の行事食や敬老会・誕生会等の特別食、月1回の日本各地の郷土料理の提供など、可能な限り多くの工夫に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	月1回のスタッフ会議で運営方針・理念を全員で唱和し、利用者一人一人の機能に合わせたサービスの提供が出来る様にスタッフの意識改革、実践へとつなげている。又、何か問題が発生した場合、緊急にスタッフ会を開催し改善へとつなげている。	法人としての基本理念を基にホーム独自の運営理念、運営方針および年度目標を掲げている。理念は掲示して毎月のスタッフ会議で唱和し、理念の意義の理解を深めながら、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるように支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で行う行事(運動会、敬老祝賀会、夏祭り等)には、声かけやポスターの掲示を行い参加していただく様に働きかけると共に地域での行事(運動会、文化祭、福祉大会等)への参加や見学も出来ている。又、小さなサークル活動等(お手玉)へも参加し交流を図っている。(子育てサロン)	地域の運動会や文化祭・福祉大会などをはじめ、保育園や小学校の行事等に積極的に参加している。日常的に散歩や買い物に出かける際には人々と挨拶や会話を交わし、ホームの夏祭りや敬老会・運動会などに地域の方々に参加して頂くことやボランティア・職場体験学習の受け入れなど交流の機会は多く利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の行事にも積極的に参加したり、又、地域の小学校の行事を通した訪問も受け入れて、交流を図る中で、入居されている方の理解を得る様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の運営推進会議の中で、個々のサービス提供や行事への参加報告を行い、出会って下さった方々からの意見や助言を頂いている。その事をスタッフ会で伝える事によりより良いサービス提供ができるよう努めている。	会議は利用者や家族・地域住民・市役所職員等が参加して定期的に開催されている。ホームや利用者の現況や活動報告並びに問題点に関する意見交換が活発に行われ、会議の内容や助言・提案等を職員は共有して、具体的に日々のサービス向上や業務改善に役立てている。また、外部評価の報告についても関係者に周知が図られており、会議は有効に機能している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出会って頂いたり、介護支援専門員の会にて連携を図っている。又困難事例等はその都度連絡、相談を行いより良いサービス提供の為の指導を仰いでいる。	市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、地域包括支援センターや福祉事務所等も各種の手続き時をはじめ、必要時には訪問して確認や相談事項等に適切に助言・対応頂くなどの連携が図られている。また、市が主催する毎月の勉強会や介護支援専門員の会合にも積極的に出席して情報や意見の交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修やスタッフ会において、身体拘束についての勉強を行い、拘束しないケアに努めている。帰宅願望や徘徊のある方には必ず職員が付き添って見守り、園庭を歩いて頂いたり余暇活動あるいは家事手伝いへと誘導して気分転換を図って頂いている。	言葉による拘束を始めとする身体拘束については、年1回は職員アンケートも実施し、日々のミーティングや毎月のスタッフ会で繰り返し話し合うとともに、マニュアルの整備や研修を通じて理解を深めてケアへの反映に取り組んでいる。職員は常に連携して利用者の見守りに努め、利用者が外出しそうなどはいっしょに園庭を散歩するなどの対応を図り、玄関や居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を実現している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修やスタッフ会において、虐待について勉強を行い、防止に努めている。又、アンケートを実施して具体的に虐待の項目を確認し認識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修やスタッフ会において学んでいる。現在、この制度を活用すべき対象者はいらっしゃらないが、すぐに対応できるようにしている。又、子供のいない利用者のキーパーソンに対して制度の説明を行う事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には重要事項説明書に添い、十分な説明を行い、本人家族の理解納得の上で、契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者・家族が何でも話せる雰囲気作りが出来ており、意見・要望が聞かれた場合は、本人・家族が納得のいく様に対応している。苦情に対する説明も行っており、面会時等に有無の確認も行っている。又、目の付く所に相談・苦情の張り紙をして、環境を整えている。	利用者の思いや意見は、声かけにも工夫した日常会話や所作の見守りなどで把握に努めるとともに、ご家族からも来訪時やホームの行事等の際に話しやすい雰囲気づくりに努めて多くの意見を頂いている。内容は個別ノートや支援記録・連絡帳等で共有を図り、必要な場合は対応を速やかに話し合い、本人やご家族に報告しケアにも具体的に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝の申し送りの際やスタッフ会で意見や提案を聞いている。業務に必要な意見であれば皆で話し合い業務がスムーズに行くように取り組んでいる。	管理者自身が日頃より職員に積極的に話しかけるなど話しやすい雰囲気づくりに努め、コミュニケーションを取りやすい環境づくりを大切にしている。日々の申し送りや研修時、毎月のスタッフ会、必要時の個別面談等で職員の意見や提案を聞き取り、対応は十分に話し合いを行いながら業務改善やサービス向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々の業務の中で積極的な取り組みや努力をしていることに対する確実な評価を行い、報いている。高い意欲と能力を発揮し、向上心をもって働く事が出来るように、職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々に応じた資格取得に向けての、意識向上や励ましを行って専門性を高めている。又、外部研修へも1人でも多く参加できるように調整を行い、質の向上へとつなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内での研修には積極的に参加する様に取り組んでいる。参加する事で他職種や同業者との交流や連携を図り、情報交換をしてお互いの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、事前の見学時や本人との面接時には、本人との信頼関係が築けるように、訴えられる不安や心配事を十分に聞き取り安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や悩み等の訴えは十分に聞き取り、早期に解決するように努めている。又、どんな小さな事でも家族と話し合いのうえサービス提供を実施しており安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている事を十分に聞き、出来る範囲で相談に応じている。又、法人内でのいろんな事業展開を見学や説明を受けることで安心されている状況です。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の流れの中で利用者様からの学びがあったり、共に行い、築き上げる作業を通じての達成感や満足感を味わって支えあう関係構築に努めている。職員は「教えて下さい」という姿勢で接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に「ご家族の力が一番です」と投げかけ、できるだけ本人との関わりを多く持って頂く様に働きかけている。外食や病院受診定期的な面会等、家族に協力を仰いで、本人との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時の聞き取りや日頃、家族や本人とのふれあいや会話の中から把握して行きたい場所や思い出の場所に行ったりしている。又、ドライブ、買い物時には墓参り等本人の希望を十分に聞き入れ在宅時生活の継続の支援に努めている。	利用開始時の本人やご家族からの聞き取り内容を利用者台帳に整理して、趣味を大切にすることを始めとした多くの支援に活用している。日頃の会話やご家族来訪時の対話からも本人が希望する買い物やドライブ・墓参り・地域の行事等を把握して、可能な支援に努めている。また、家族との電話や家族・知人等の来訪時にはゆっくりくつろげるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の微妙な関係性も小人数なので十分に把握できる環境にある。それぞれがお互いに関われるような座席の取り方や、声かけに努め支えあって共に生活しているのだと感じて頂けるように心がけ支援している。又、重度の方への職員の積極的な声かけにより他の利用者に関わって下さる事が増え、優しさや思いやりにあふれている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も情報提供を行って家族の不安軽減に努めると共に、関係性を断ち切る事のないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から本人の思いを引き出せるように働きかけている。重度の方へは閉じた質問を投げかけるように指導し、できるだけ本人の思いを引き出せる様に努めている。	利用開始時の本人やご家族からの聞き取りや、声かけにも工夫しながら日常の言葉や表情・所作から思いや意向をくみ取るように努めている。ご家族ともよく話し合い、ケア会議等で内容は職員が共有して必要な対応を検討し、本人の思いを大切にしたい支援となるように努力を重ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時、又は日々の本人との会話の中から生活暦や好きだった事などを聞き取れる様な信頼関係作りに努め、理解出来ていると思う。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に様子観察を行い、連絡帳や朝の引継ぎ等を利用して把握に努めている。人としての個性と尊厳を大切にケアを行っており情報の共有を図られている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス実施時には家族の意向を聞き取り 又、会には本人にも参加して頂いてプラン作成を行っている。又、目標期間中、状態の変化で実行不可能になった場合や期間終了前にはプランにそった評価をケアマネ、介護スタッフの立場で出している。	サービス担当者会議は利用者本人も出席して行われ、ご家族の意向の確認はもとより、主治医や看護師など関係者の意見も反映された介護計画が作成されている。設定した目標はケアチェック表や毎月の経過記録・生活記録等を基に、カンファレンスやスタッフ会で検討・共有してプランの見直しを適切に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の仕方や大切さを事あるごとに指導している。個々の終日の記録や生活記録等その日のうちに記入し、情報の共有に努めている。又、外部研修で記録の大切さを学んだ職員が施設内の研修で発表し職員の個々の質の向上にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニットでの取り組みは勿論母体である法人の長年の経験がG.Hでも活かされていると思う。柔軟な対応が本人、家族に喜んで頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一回の運営推進会議に地域の代表、派出所、消防の方々の参加も頂き、GHの現状や取り組みを伝え、協力の依頼もし、「何かあったらすぐに協力します」との温かい言葉も頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医との関係を存続しながら必要時や緊急時の受診の支援を行っている。又、歯科受診等本人希望時はすぐに予約を取り実施できている。	利用前の受診の経過は十分把握し、本人やご家族の希望を最優先してかかりつけ医の受診を支援している。通院はご家族の同行が主であるが十分に連携を図り、受診状況は個人ノートや連絡帳で職員をはじめとする関係者で共有し、かかりつけ医への連絡もバイタルチェック表のコピーなどで適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化時はすぐに特養の看護職員がかけつけて下さり、緊急処置や受診の手配等の指導を受けている。日頃より交流を図り、利用者様の様子も理解してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換を行い、情報書として提出している。入院先のケースワーカーや関係者への連絡を定期的に行い、状態把握に努めると共に関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人、家族の意向を確認している。又、重度化、終末期において希望される時は、母体の特養への申し込みもされる事もある。本人の状態は事あるごとに御家族に伝えている。	重度化や終末期のケアについては、必要時に「急変時（終末期）についての同意書」により方針を説明し同意を得ている。状況の変化にも関連施設やかかりつけ医との連携のもと、職員やご家族と十分に話し合い、ホームで行える必要な支援を実施できる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修やスタッフ会において緊急時の対応（救急法）や応急手当の方法を学んでいる。時にはジャーミー人形を使用し、心肺蘇生のやり方等も実施して実践力につなげている。又、夜勤帯等に各々「急変時対応マニュアル」に目を通して知識を身に付ける様に努める様に指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>月1回のスタッフ会での避難方法の確認や年2回の特養との合同の訓練により、利用者様を安全な場所へ避難出来る様にしている。又近隣住民との協力体制もできている。</p>	<p>消防署との連携で年2回は火災や自然災害を想定した避難訓練を、隣接の特別養護老人ホームとともに実施し、毎月のスタッフ会では避難方法の確認などを行い利用者の安全確保に努めている。地域とは防災応援協定も結び協力が得られる体制も築いている。災害時に備えた各種の設備や食料・飲料水等の準備も十分な状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についてもスタッフ会議で学んでいる。常に、人生の大先輩として接し人格を尊重するような声かけや対応に職員一人、一人が努めている。トイレ使用時、入浴時は特に配慮に努めている。カツラ使用の方もおられ個別で対応している。	本人の誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を、入浴時や排泄時のケアをはじめとした日常のケアに際して、全職員がお互いに確認し合いながら十分に配慮している。また、個人記録の仕方や保管場所、居室の保護などにも十分に気配りしながら、利用者個々のペースに合わせたケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事あるごとに本人に尋ね希望を決めて頂けるような支援を行っている。職員にも本人の想いが引き出せるような質問の仕方等を指導すると共に、何でも話せるような雰囲気作りにも取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切に考え、明るく楽しく生活して頂ける様、本人のペースに合わせて寄り添ったケアを心掛けている。時には業務の順番も変え利用者様に合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日の整容時間に、男性は髭剃り、女性は外出時は本人と相談し、希望される服を着て頂いている。散髪希望時は月1回の散髪屋さんの訪問時にカットして頂いたり、特別な行事の時には、化粧をほどこしたりしてお洒落を楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食材やメニューを利用者様と共に考えながら、献立を決定したり簡単な調理補助作業にも個々に応じ手伝って頂いている。食事の際には手伝って下さった事を労い、次の意欲へつながるような声かけや雰囲気作りも行っている。年末は年越しそばも共に作る。	利用者に野菜の下ごしらえや食卓の準備・後片付け等を利用者の能力に応じて一緒に行い、食事を楽しみながら行う雰囲気づくりに努めている。また、季節の食材を利用しながら好みに応じた献立や調理方法にも対応し、時には庭でのお茶や食事会も楽しんで頂いている。季節の行事食や敬老会・誕生会等の特別食、月1回の日本各地の郷土料理など多くの工夫も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3回の食事摂取状況、水分摂取量を確認し、毎回記録を取っている。1人1人の様子観察を行い、状態に応じて日中水分摂取の少ない方は夜間のトイレ使用に起きて来られた時を利用して不足分を補っている。又、献立を特養の管理栄養士に確認してもらい、頂いたコメントをスタッフ会で読み上げて日々の食事提供に活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施している。1人1人の状態に応じて細かい声かけ指示を行い、できるだけ自分で行う事が出来る様に支援している。できない方は職員が義歯の出し入れ、洗浄まで行っている。又、週1回は義歯洗浄剤を使用して洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄意の無い方でも定期的なトイレ誘導を行いオムツの汚染が少なくなっている。一人、一人の排泄も記録している為パターンもわかりトイレでの排泄が成功へとつながっている。リハパン使用から布パンツへと戻した方もおられる。	個人の習慣や状態に応じた排泄支援になるように、「バイタルチェック・水分摂取表」で利用者個々の排泄パターンを時間単位で把握して、適宜の誘導や声かけで排泄の自立のための支援を行っている。これらの一連の工夫はケアプランにも組み込んで、対応は職員が十分に話し合い、排泄用品の選択等も含めて利用者個々に適したケアとなるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の記録にて、排便の確認を共通理解し不穏行動が見られるとき等、早期の誘導にて落ち着かれることもある。運動や水分摂取等に努めてやむおえない場合は主治医へ相談し対応している。又、週3回の入浴後の水分補給を兼ね牛乳等の乳製品を提供したりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	火・木・土の午後からの入浴が楽しみとなる様な声かけを行って実施している。行事等と重なった場合は変更になったりするが、週3回の入浴と週1回の足浴で清潔保持ができています。拒否があった場合は無理強いせず清拭、更衣を行う。	利用者の体調や気持ちにも配慮しながら、週に3回の入浴と1回の足浴をできるだけゆっくり楽しんで頂けるように支援している。安全面にも十分に注意しながら、入浴をしたくないと言われるときでも、スムーズに入浴して頂けるように、声かけや誘導・話し方などを工夫して気分転換に努め、個々に適した支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間のメリハリがしっかりとつくように支援している。昼夜逆転にならないように、毎日ストレッチ、園庭散歩又は室内歩行、音楽リハ等実施して覚醒を促しているが無理強いはいはしない		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後の薬の処方については、そのつど連絡帳へ記入を行い、情報の共有を行っており、服薬時は必ず本人の顔と薬が一致しているかを確認し、誤薬のない様にしている。変更があった場合は、様子観察を行い記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	どんな小さな事でも一人、一人できることを見つけ出し役割を持っていただくことで張りのある生活が過ごせている。又、得意な事や興味のある事好きな事が継続できるよう支援し、出来た作品等は発表や掲示の場を設けている。又、タバコを吸われる方も希望時は付き添って安全に配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々のプランに応じドライブ提供や買い物支援が実施できている。行きたい場所や買いたい物等本人の希望に沿って、外出され楽しみの1つになっている。又、家族との外食や地域で行われている行事（文化祭、運動会）等の参加もでき大変喜ばれている。市内の名所や季節を感じる事のできる場所等へもお連れしている。	広い敷地にはところどころにベンチも置かれ、天気の良い日には日光浴や散歩、時にはお茶会や食事会も楽しんで頂いている。また、家族からの情報も活用しながら個々の利用者の好みも日頃の会話からくみ取り、天候や健康状態にも配慮しながら、買い物やドライブ・墓参り・地域のイベント・家族との外食・月1回の図書館での地域の人々とのふれあい・関連施設との交流など、季節も感じながら楽しく外出して頂けるように様々な工夫や支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理の出来る方は病院受診時や買い物の際には自払いされている。出来ない方は預かり金より自分で支払ができるような声かけやお金を手渡して自分で出来る喜びを味わっていただいている。預かり金は家族の面会時に出納帳を見て頂き残金の確認や補充をして頂いている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎは必ず本人に代わって頂くように行っている。本人希望の時にも対応している。年始の挨拶、年賀状だしにも取り組みご家族様より喜びの返事があったりする。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>その月にあった飾り物や置物で季節を感じて頂いてる。又、職員の支援の元、作り上げた作品が暖簾等自分の居室の飾り物になったりして、とても生活感あふれる空間作りができています。又、温度計、湿度計をこまめにチェックして必要時はエアコンを使用したり霧吹きをしたり、濡れたタオル等を各居室にかけたりして不快感軽減に努めている。</p>	<p>リビングは日当たりがよく、明るく広々としており静かな音楽も流れてゆったりとくつろげる環境である。温度や湿度にも十分に配慮がなされ、季節が感じられる花や手作りの作品なども飾られて居心地良く過ごせるように工夫されている。桜の木が多い園庭も広く、ベンチも配置されておりお茶や散歩・日光浴などが楽しめる。自由に気持ちよく過ごせる環境である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>時には居室にてのんびりと衣類の整理をされたり、ラジオを聴かれたりされる時間もある。又、皆様それぞれ気の合う同士で居室を訪ねアルバムを見せあったりと楽しく過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や在宅時に良く使っておられたなじみの物等で、家と同じような感覚ですごされるように支援している。殺風景にならないように、時計やカレンダー 又、余暇活動で自分で作られた物やぬり絵等を飾って満足感を得て頂いている。	居室はホームが準備したものの他に、本人や家族の希望に沿って使い慣れた家具や日用品・写真・ぬいぐるみなどを自由に持ち込んで頂き、自分の部屋として落ち着いて過ごせるように支援している。また、季節に応じた飾りなどの工夫も楽しんで頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口のスロープや廊下やトイレ・浴室に手すりの設置がしてあり、安全性は確保してある。各居室とトイレにはナースコールもあり、個人の能力に応じて使用され、安心した生活が送れている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎月スタッフ会で唱和しており一人一人の個性と尊厳を大切にサービスの提供が出来るよう心がけている。利用者が地域の中で自分らしく暮らせるよう、毎月スタッフ会議にて確認を行いながら実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	色々な地域との交流、ケアプランにも取り上げており、保育園、小学校等の催し等に参加してもらい、その時の感想を聞き記録に残している。職場体験ボランティア等の訪問も多く、日頃より多方面で交流が多い。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	いつでも見学できるよう、そして地域の方々に理解してもらえよう取り組んでいる。GHさくらの里新聞等利用し日頃の様子等公表し、日頃より理解して頂けるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度、ご家族へ参加の呼びかけをし会議での意見を参考にサービス向上に活かしている。参加され意見していただいた事は参考にし実践へ生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が市町村に行き、色々な事を積極的に伝え協力関係を築くよう取り組んでいる。又、困難な事例がある時には相談を行い、的確な指導をあおいでいる。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修などで、身体拘束はしないよういつも声かけを行い、勉強会で取り組み、自立した生活ができるよう支援している。自由にのびのび開放的に無理強いたくなく生活できるよう支援している。			
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員が皆、虐待の防止方法などの勉強会をいつも取り組んでもらい、虐待を発見した場合は即、市町村へ通報義務があることをすべてのスタッフが心得ている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月一回の研修会で定期的に勉強会を開き、権利擁護に関する制度の理解は全職員が理解している。現在必要とされている方はいらしゃらないが、すぐに対応できる体制ではある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約等は管理者がしっかり行っている。家族にも理解してしてもらえるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口を表示し、家族、本人の意見など聞き運営推進会議等で意見の反映を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会などで意見、提案を言ったり聞いたりする機会を設け、業務がスムーズに行くよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は日々の業務の中、積極的に取り組み確実な評価を行い、職場環境などの整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外での研修の機会を提供すると共に、個々に応じての資格取得（介護福祉士、ケアマネージャー）に向けての勉強会にも参加している。又、業務の中での的確な指導を行い、質の向上へとつなげている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービスを通じ認知症ケアに対する勉強会や研修への参加の声かけを行い、サービス提供の質の向上を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ皆が優しい声かけ、人生の大先輩として尊敬した言葉使い等、十分気をつけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、要望、希望等職員に気軽に相談できるような雰囲気作りを面会時等に行っている。安心して生活できている姿等見られると安心され信頼関係へとつながっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して生活して頂けるよう常にやさしく、見守りを行い他の利用者とのコミュニケーションもうまく図れるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の親だという気持ちで共に助けあって生きていく関係を築いている。人生の大先輩として、尊厳と尊敬を持ち共に生きている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係を築き利用者を、皆で支えていく気持ちで協力しあってみ守っている。利用者の日常の様子を見たり明るい表情になると安心され、ご家族の協力も得やすい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔行きつけだったお店等買い物等の時、昔を思い出して頂けるような顔なじみの店員から声をかけて頂いたり、そのような交流の場を提供している。ドライブや買物、行事等毎月2回程行事計画で取り入れている。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い気の合った同士、会話もはずみ笑顔の耐えないホームになっている。時々、誤解が生じてトラブルになりそうな時は素早く職員が間に入って、発展しないように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつも笑顔で対応している。その後の様子を伺い労いの声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、面会時、随時近況報告を行い、相談しやすい雰囲気を作っている。又、日々の会話の中から、本人の思いを引き出せる様に働きかけている。本人の思いを大切に対応している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ドライブ、買い物時、なるべくその方の昔なじみの場所、知り合い方と出会えるような所へ行けるよう心がけている。車中や余暇時間等、リラックスされ昔話等聞き出し情報を得る。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく1対1でその方と相談、話しあえる体制をとるようにしている。細かく1日の記録を行い、スタッフ全員で把握しカンファレンス等で検討を行う。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なるべく本人を交えて3ヶ月毎のカンファレンスを行い、本人家族の意見をしっかり取り入れて、プラン作成を行っている。又、目標期間中、状態の変化で実行不可能になった場合や期間終了前にはそれぞれの立場でモニタリングを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつでも職員間で、情報を共有できるように個人ノート、連絡ノートを利用している。細かく記録し検討を行い、プラン見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人、個別的対応で自分らしく自分の力を存分に発揮しながら穏やかで安らぎのある生活を支援しています。相手の立場や気持ちを尊重し柔軟な態度で対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の代表、ご家族等参加して頂いて、現状取り組みを伝えていると共に協力の依頼も行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、又は家族が希望し納得している医療機関、歯科を緊急時や定期受診できるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>変化や異常に気づいた時は特養看護師に相談し、受診の有無を判断していただき状態に応じ病院受診したり早めの対応に心がけている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合、利用者の情報がすぐ分かるように情報提供書を提出している。又、退院時も病院関係者から提供してもらい、関係作りにも努めている。</p>			
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>最初の段階で重度化や終末期のありかたについて、本人、家族と話し合いを行い、希望される時は特養の申し込みも早いうちに手続きをされている。</p>			
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に勉強会、研修で実践している。時にはジャーミー人形を使用し、心肺蘇生のやり方等も実施している。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害等の災害時の訓練は特養と合同の訓練を定期的に行っている。日頃より全職員に施設内研修等で理事長より指導されている。又、近隣住民への協力の依頼もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人、一人の個性と尊厳を大切にし誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。言葉使い等プライドを傷つけない声かけを行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に対し遠慮なく、言いたいことが言える雰囲気作りを心がけている。どんな小さな事でも自己での決定を促し優しく対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のその人の気分に合わせて無理強くない一人一人のペースや希望にそって応援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	誕生会等外出時は紅とファンデーションをされている。利用者もはなやぎ嬉しそうである。又、月1回へアーサロンの方が来て下さり本人希望時にはカットされている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食膳の下ごしらえから参加して頂き共通の意識を持って準備を行うと食事も楽しまれ、後片付けまで手伝ってくださる。役にたった嬉しさも感じられている。メニュー会議も実施して、食べたい献立を多く取り入れたメニュー作りを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、管理栄養士に献立を見てもらいコメントをスタッフ会で読み上げ栄養のバランスはうまくできている。水分補給は個人の摂取量を記録につけて脱水予防を行う。不足している方には夜間帯に補うようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は1人ずつ声かけをし、しっかり口腔ケアを行って入る。週1回義歯洗浄剤を使用し消毒している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら出来るところは自分でして頂き、できない所をできるように改善を促している。日中はできるだけ布パンツを使用してもらっている方もいる。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と便管理をしっかり行っている。毎日の歩行訓練等適度な運動をして健康管理している。排便チェックをしっかり行う。それでも困難な方には主治医に相談行的確な指導を仰いでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	温泉に入る様な雰囲気作りに心がけ一人一人の時間をゆっくりと設けて入って頂いている。行事等と重なった場合は変更することもあるが、週3回の入浴で保清は保たれている。又、起床時には全員陰部清拭を行なっている。			
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜間の区別をしっかりと身に付けて頂けるよう日中は出来る限り、皆さんとストレッチ、音楽リハビリ、余暇活動に参加して頂き夜間は安心して休まれるよう支援している。			
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の配包は土曜日の夜勤者が1週間分をしっかりと配布してスタッフ皆が把握できるように、服薬表をファイルして、服用の際は本人の顔と薬が一致しているか確認すると共に、服薬に記名して誤薬のないよう気をつけている。又、定期受診の際主治医に報告、相談することで薬の調整をして頂いている。			
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリの中でモップがけや洗濯物のたたみ等日課となって手際よくされる方もおられる。又、一人一人の嗜好品(コーヒー、タバコ、チーズ)等希望時には提供している。			
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別的にドライブ、買い物等一人一人の希望にそって、その時の季節を肌で感じてもらえるよう、そして、気分転換をして頂き又、リフレッシュしてホーム生活を送られるよう支援している。又、家族との外食や地域での行事等への参加もできている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>月1回の買い物を自分でカートを押す品物を選び自分でレジの支払をされ日記に記録される。レシートはこちらで預かり保管している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙が届いたら本人に詠んでもらい手渡している。絵手紙や年賀状で近況をお知らせしている。ご家族からのお電話は本人に出て頂き、家族の声を聞いて頂いている。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じ貼り絵等で表現している。湿度計等定時に記録し加湿器、霧吹き等快適な室内環境を整える様に対応したり、静かに音楽を流したり演出を行って退屈されないように工夫に努めている。</p>			
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自由に居室への出入りをされ思いのまま動かれている。テレビを見ながら共通の話題で話が盛り上がる事もある。又、居室で片付けをされたり、ゆっくりと読書去れたり、ラジオを聴いて過ごされたりと思い思いの時間を過ごされている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がなじみの物を持ってきていただき、自分だけの懐かしい部屋だと思ってもらえるよう慣れた物、好みの物を活かし居心地の良い場所を提供している。ご家族の写真や自分の仕上げた作品など飾りいつでも見られるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口のスロープ、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置してあり安全性は確保してある。各個室とトイレにはナースコールもあり個人の能力に応じて使用され、安心された生活が送れている。又、自分の部屋やトイレの場所がわかるように紙に書いて表示している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない